パパ活リベンジ

「オーストラリア人女性」にポルノしたランドリー王、

社長が「性行為動画を彼氏と家族に」

〈楽しそうだね。夜はこんな感じでしょ？〉
〈SEXも楽しい？〉

ある男性のインスタグラムに、見知らぬアカウントから突然届いたメッセージ。怪訝に思い、スマホの画面をスクロールすると、一緒に旅行している彼女の裸の画像が貼り付けられていた。

それを見た彼女は、ひどく狼狽してこう言った。

「心当たりがある……」

事の発端は、国籍を超えた〝パパ活〟だった。

「当時は仕事がなく、東京に出てきた時の所持金は千円。生活のためにお金がどうしても必要でした」

涙ながらに打ち明けるのは、オーストラリア人女性のサラさん（仮名・25）だ。

一昨年、ワーキングホリデーで来日したが、コロナ禍で職を失った。日本語も話せず、困窮した彼女は昨年四月頃、友人に「Seeking Arrangement」という〝パパ活サイト〟を勧められた。現在、世界各国で二千万人以上の登録者を持つマッチングサービスだ。

サイトに登録するとすぐに初老の日本人男性がコンタクトしてきたという。

「会う前はとてもナーバスでした。ネットで知り合った男性と直接会うのは初めてだったから……」（同前）

指定された場所は新宿の高級ホテル、ヒルトン東京のレストランだった。

「最初の印象は礼儀正しい人。英語も流暢で、政治や気候変動の話まで、世界の抱える問題について自分の意見を話していました」

ワインや食事を楽しんだ後、「もう少し飲もう」と誘われ、男性が予約していた部屋へ。そこで、サラさんはこう誘われる。

「十万円でセックスしないか？」

求めに応じて肉体関係を持った後、男性は「週に一回デートしてくれたら、毎回五万円あげる」と持ち掛けてきた。二度目のデートからは新宿のパーク ハイアット東京で会うようになる。

「トップフロアのレストランでアメリカンステーキをご馳走してくれた。打ち解けてくるうちに、彼は自分のキャラクターを明かし始めました」（サラさん）

男性はワインやビールを次々と飲み干しながら、こんな話を聞かせたという。

「日本人は嫌いで、若い外国人の女の子が好き。以前はポーランド人の妻がいたけど、離婚して今は独身だ」

「私はマッチングサイトのプロフェッショナル。長年使いこなし、世界中の女の子をゲットしてきた」

やがてサラさんに対し、「もし君が望むなら、（永住のために）結婚してあげてもいい」とほのめかし、「親から継いだ会社を大きくして、多くの従業員を抱えている。たくさんお金をあげるから、私のセカンドハウスに住んでほしい」と懇願してくることもあった。

そんな提案ができる男性とは何者なのか。

「彼のLINEのアカウント名は、日本語で〝ランドリー王〟を意味していました」（サラさん）

彼の本名は宮園誠士郎氏（58）。業務用洗濯機や乾燥機などを輸入販売する「株式会社ダイワコーポレーション」と、その子会社でコインランドリーを全国展開する「株式会社プライムランドリーソリューションズ」の代表取締役社長だ。

二〇一九年の連結売上高は約五十九億円。従業員数は子会社だけで五百四十名、総出店数は二百六十八店舗に上る、コインランドリー業界の最大手企業である。

だが、サラさんは宮園社長の提案を断った。

「彼は真剣に交際していると思い込んでいましたが、私が彼のガールフレンドであったことは一度もない。お金が発生しており、リアルな交際ではないからです」

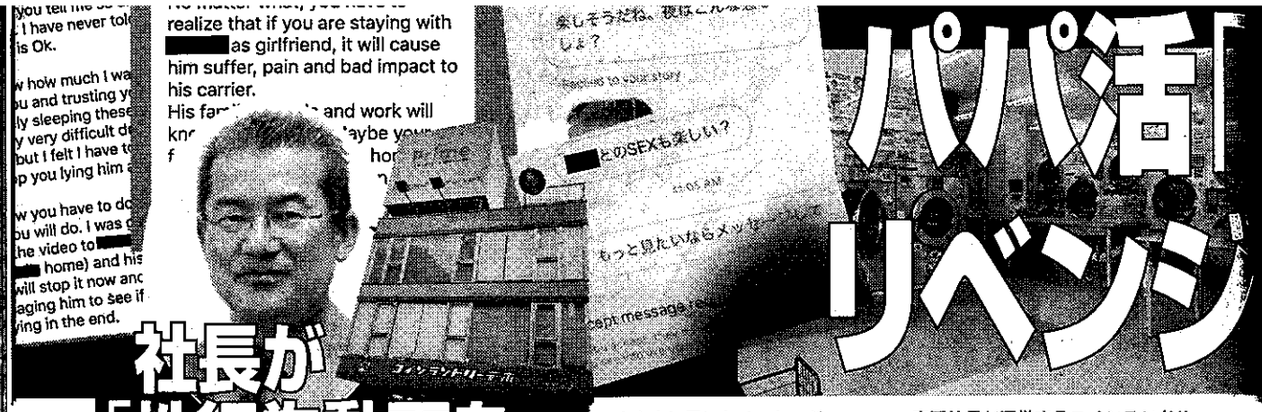
そんな彼女の思いとは裏腹に、宮園社長の〝束縛〟は強くなっていく。

「彼は、私に友達ができることも嫌がったし、せっかく決まった英会話講師の仕事も辞めてほしいと言ってきました」（同前）

二人の関係に転機が訪れたのは昨年九月。サラさんに本当のボーイフレンド、Aさん（27）が出来たのだ。

Aさんが語る。

「一カ月ほどデートを重ね



Aさんに届いたメッセージ　宮園社長が運営するコインランドリー

て仲良くなり、『どこか旅行に行きたいね』という話になったんです」

サラさんが後を受ける。

「その後、私は十一月二十日に宮園と会いました。彼は私がよそよそしくなったことでボーイフレンドができたと察知したのか、『僕はそろそろ他の女の子を探すよ』と言いました。これで関係が終わったと思い、安心したのですが……」

その二日後、サラさんは身辺に異変を感じ始める。

「街での買い物中に、中年のカップルがカメラを向けてきたんです。どの店に行っても彼らがいて、電車を乗り換えても追ってくる。最後はAの家の最寄り駅までついてきた」（同前）

サラさんとAさんは、翌日から二人で四泊五日の国内旅行に行く予定だった。

「翌朝、Aの家を出て電車に乗ったら、昨日と同じ服装のカップルがまたいたんです」（同前）

不安な思いを抱えながら旅行に出かけたサラさん。すると冒頭のように、宮園社長からAさんのスマホにメッセージと、性行為中のサラさんの動画をスクリーンショットした画像が送り付けられてきたのだ。

〈犯罪だって？　違うよ〉

その間、Aさんには宮園社長から次々とメッセージが送られてきた。

〈良い女だからそのままやり続けようか迷ったけど、若い君が騙され、俺に嘘付くサラが許せなくなった。探偵雇って証拠を集めて今回決意した。君が引くに引けない位ハマったら後戻りできないでしょ？〉

一方、サラさんに対してはLINEでこんなメッセージを送り続けた。

〈私は今から〇〇（Aさんの自宅がある町）とAの会社に動画を送ろうと思っている。でも、もしあなたが嘘をつくのを止めたら動画を送るのをやめるよ〉

〈君がAの彼女でいる限り、彼を苦しめ、傷つける。君の家族や友人が、君が日本で娼婦をしていたことを知るかもしれない〉

〈彼と別れない限り、私は彼の家族にあなたはどんな人物か教えることになる〉

性行為が盗撮されていた事実を知ったサラさんは、

〈私の許可なくセックスを盗撮し、他の人にその動画を送ったことはリベンジポルノであり、犯罪です〉

とLINEで訴えた。だが、宮園社長はこう返信。

〈犯罪だって？　違うよ。私はお金を払ってるんだから。三百万円くらい返してくれないと、私は黙らないし、忘れないよ〉

その後、サラさんとAさんは弁護士に相談したが、宮園社長側が話し合いに応じないため、今年二月十五日に警視庁北沢署に被害届を提出。五月十日、宮園社長は脅迫容疑で東京地検に書類送検された。

小誌は一連のLINE等のやり取りを確認した上で、事実関係を聞くため、宮園社長を電話で直撃した。

――パパ活をされていた？

「いや、あのお断りです」

――脅迫していましたか？

「勝手なことしてもらったら困るんですけど。取材は受け付けていません」

その後、代理人弁護士を通じて文書でこう回答した。

「刑事手続き中の案件でもありますので、回答を差し控えます。取材についても、一切お受けできません」

最後にサラさんが語る。

「今ではとてもバカなことをしたと後悔し、深く反省しています。ただ、私は被害者の一人にすぎないのかもしれない。今後も同じような事件が起きないことを願っています」

パパ活には常に、重大なリスクが潜んでいる。

サラさんに送られたLINE（上）、宮園社長（円内・会社HPより）